

生活

seikatsu@asahi.com

「徘徊 = 他者に害」決めないで

列車事故訴訟 最高裁判断を前に

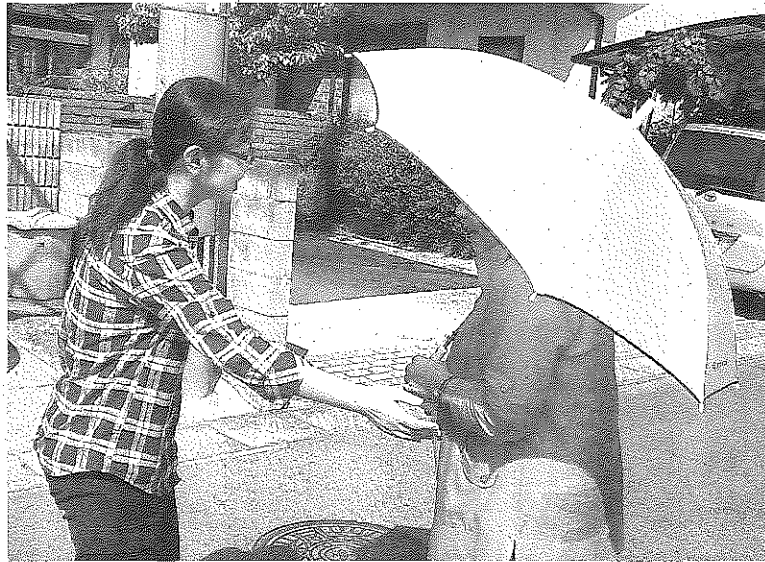
介護現場 「認知症ケアに影響も」

徘徊中に列車にはねられた認知症の男性の遺族が、鉄道会社から損害賠償を求められた裁判。徘徊は他人に害を及ぼす危険性がある行為との認識が示されましたが、そのようなのでしょうか。3月1日に言い渡される最高裁判決を前に、徘徊について考えます。

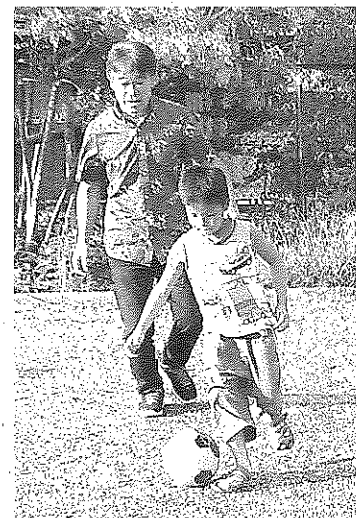
「いったん徘徊した場合に、どのような行動をするかは予測が困難であり(略)他者の財産侵害となり得る行為をする危険性があった」と名古屋高裁は徘徊について判決でこう指摘した。名古屋地裁判決も、線路や他人の敷地に侵入したり、道路に飛び出したりする結果、「他人の生命、身体、財産に危害を及ぼす危険性」について言及している。

最高裁判決でも、こうした見方が示されるのかどうか、心配する介護関係者は少なくない。認知症対応型のデイサービス「ケアサロンさくら」(神奈川県鎌倉市)は、利用者18人のうち12人が徘徊したり行方不明になったりした経験がある。そうした利用者も、心身の機能維持と地域交流のため、みんなで一緒に近所を毎日歩く。商店街であいさつを交わし、公園で子どもたちとサッカーをして遊ぶ。

徘徊中の列車事故訴訟 愛知県大府市で07年、徘徊中の認知症の男性(当時91)が列車にはねられて死亡。JR東海が振り替え輸送費など約720万円の損害賠償を遺族に求めた。名古屋地裁は13年、同居の妻と別居の長男に約720万円の支払いを命じた。名古屋高裁は14年、妻のみに監督義務を認め、約360万円の支払いを命じた。



認知症の人が行方不明になった想定で模擬訓練。見つけた住民が声をかけた。2013年9月、福岡県大牟田市



デイサービスの利用中に公園で子どもとサッカーを楽しむ若年認知症の50代男性。神奈川県鎌倉市(ケアサロンさくら提供)

患者を生きる

2997 がん

読者編③

今回は、独身女性の闘病を振り返った「おひとりさま」編、がん患者支援サイトを作った男性を紹介した「ネットでつながる」編への反響です。

●自分らしく生きる
私も、「おひとりさま」の連載に登場した女性と同様、40代で独身です。がんではありませんが、昨年12月、子宮の病気で入院し、手術を受けました。
子宮腺筋症という病気で、子宮を残す治療を受ける予定でした。しかし、ほかの病気も見つかり、

と思われる風潮になれば、介護の世界はゆがんでしまう」と心配する。
不必要な閉じ込めを避けるため、できるだけ鍵をかけた介護事業所も数多くある。

閉じ込めず見守る

認知症ケアに携わる人たちは、一般的に「徘徊」を「目的もなく、うろろろと歩きまわること」(大辞林)とはとらえていない。認知症の人の場合、理由があつて外出した後に、その理由を忘れてしまったり、帰りの道が分からなくなったりしているからだ。
こうした意識から、自治体や団体の中には、「徘徊」の言葉を使わないようにする動きがある。

福岡県大牟田市は、行方不明になった認知症の人を捜す想定で、2004年度から「徘徊SOSネットワーク」構築に取り組んできた。
昨年、名称から「徘徊」を外し、「認知症SOSネットワーク」模範訓練にした。認知症の本人からの「自分たちは、理由もなく何も分からず歩いているわけではない」という意見を踏まえた。
兵庫県は1月、県内の市町が「認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク」を作る際に参考にする手引書を作成。認知症の人の行方不明防

自由な外出、尊厳の問題

元厚生労働省老健局長の宮島俊彦・岡山大学客員教授の話 認知症の人、そうでない人と同様、人としての尊厳が保持されるべき。自由な外出できるか否かは、尊厳の問題。体の機能を保つ上でも外出は推奨すべきだ。

認知症ケアの専門家の間では、徘徊は基本的に他人に危害を加える危険を伴う行為とは考えられていない。一、二審判決は、認知症の人が住み慣れた地域で暮らすことを目指す国の施策に逆行する。もし最高裁で同じような判決が出れば、この国の認知症ケアを、認知症の人の閉じ込めが横行していた昔のやり方に逆行させかねない。省令でも原則禁止されている身体拘束にもつながりかねない。

「介護労働を生きる」(現代書館)などの著書があり、いまはデイサービスで認知症高齢者の支援をしているライター白崎朝子さんは「最高裁の判決によっては、私たち介護職員は利用者を監禁し管理する『牢獄の看守』になるしかない。判決がケアの未来を決める」と話す。

ひととき

病院の検査前日。々々水一滴も飲めないのに、家族でもめごったせいか深夜に血圧が上がり、脈拍数が増え、くも膜下出血の疑い。延期したかったが、その思いで病院に行き、終了後、お茶を飲み、息ついて会計を待つ。と、私よりひと回り年上の杖をついたおばあさんが近づいてきた。「そうですね。どこが悪いですか。白いブラウス色の洋服がいいですわ。回りも違うでしょうか。三回りなんて言初めて聞いた。会計で名前を呼ばれ

ネット情報にショック

記事の女性のようになり、これからも自分らしく生き切りたいと思っています。
(東京都 女性 45歳)
●情報選別の難しさ痛感
精巣がんになった大久保淳一さんの「サイトを見て落ち込んだ」という体験を読み、たいへん共感しました。
私も一昨年、がんではありませんが、人間ドックで「間質性肺炎」を指摘されました。
詳しい検査を受ける前に、まずネットで色々検索をしました。



精巣がん入院中の大久保淳一さん。「ネットでつながる」編から、本人提供

ところが、「5年生存率」の厳しい数字などを見て、たいへんショックを受けます。テレビの人たちが「なんぞうのか」がります。何をしてもいい。現在は、ログを毎日不安。ネット上で正